

環境フェスタ ^{2017・第1回} in 小山

10/1 日

会場：小山市文化センター小ホール

小山市中央町 1-1-1 電話：0285-22-9552

入場料 1000 円 (当日券あり)

開場 13:00～

13:30～14:30

特別企画

「私たちの渡良瀬遊水池」を求めて

〈報告者〉浅野正富氏

(ラムサール湿地わたらせ事務局長)

(あさのまさとみ) 1957年生まれ。1969年から小山市在住。弁護士。早稲田大学法学部卒業。2009年からNPO法人ラムサール・ネットワーク日本事務局長。

【趣旨】2012年に渡良瀬遊水池がラムサール条約湿地に登録されて5年。この条約は、すべての湿地のワイズユーズ(賢明な利用)を目指しているが、渡良瀬遊水池でのワイズユーズ実現のためには、国と地方・自治体間・官民の垣根を越えた共通の将来ビジョン下での取り組みが必要である。渡良瀬遊水池関係者が、より賢明になって垣根を乗り越え、誰もが「私たちの渡良瀬遊水池」と呼べるようになって行くための方策を、参加された皆様といっしょに考えてみたいと思います。

14:45～15:45

小口一郎版画集「足尾鉍毒事件3部作」第2弾を映像化

映画上映会

鉍毒に追われて



北海道移住

足尾鉍毒事件は、日本で最初に発生の悲惨な公害で、田中正造という政治家が出現、谷中村民とともに鉍毒の反対運動を起こした。

また、この鉍毒事件を掘り起こし、版画作品で告発をしたのが小口一郎。映画は事件の実態を克明に取材し、その事実を版画作品にまとめた。それを中心に構成したものである。

2011.3.11の東日本の大震災と、東京電力原発事故。事故収束の目処すら立たず、福島を離れることを余儀なくされ、また放射能被爆に不安を抱く人々を大量発生させた原発は、足尾鉍毒事件と重なると多くの国民が気づいた。それが、皮肉にも田中正造と小口一郎という人物がさらに注目されているということであろう。

足尾からの排出された鉍毒が、豊穡の大地だった谷中村を襲い、住民は強制立ち退きを強いられた。国から用意された入植地は北海道のサロベツ原野で、想像を絶するさらなる苦難が待ち受けていた…。

16:00～

●「ニューヨークの康予／2012春」ドキュメント

●「万葉五色」放射線を帯びて赤く感光した8mmフィルム自家現像。

* ヤジマチサト士：制作 William Paul Delp：音楽

●「Endlager 最終処分場」WasabiChilliFilms / 国本隆史 RenatoVazquezsei:制作